

歴史文化社会論講座紀要

第17号

正倉院藏王勃詩序校証（下）	道坂 昭廣	… 1
平安貴族社会における追善仏事と親族集団 ——十・十一世紀を中心に——	澤田 裕子	… 一
閑院第造営に見る鎌倉時代の公武関係	米澤 隼人	… 三
山城国久多郷（京都市左京区久多）の中世地名と名・垣内・屋敷	村上 絢一	… 四九

2020年2月

京都大学大学院人間・環境学研究所
歴史文化社会論講座

『歴史文化社会論講座紀要』投稿規定

1. 投稿資格は、原則として、京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座（以下、「本講座」と略）所属の教員、大学院生（元大学院生を含む）、および本講座教員が推薦し講座会議で承認されたものとする。ただし本講座に関わる教員の共著者として、それ以外のものを含むことができる。
2. 原稿は、本講座と関わる研究論文等で未発表のものに限る。二重投稿は認めない。
3. 掲載原稿は、原則として京都大学学術情報リポジトリに登録・公開するものとする。ただし、執筆者の要望により公開しないことも可能である。
4. 編集委員会は、投稿原稿について学内外の複数名に査読を依頼する。査読者は、①採用 ②語句の一部修正により採用 ③内容面にわたる修正の上採用 ④不採用 を判断する。
5. 投稿原稿の採否は、査読結果を基に編集委員会が決定する。
6. 投稿原稿は、日本語の場合 400 字詰原稿用紙換算で 60 枚以内、欧文の場合 8,000 語以内を目安とする。
7. 投稿予定者は、毎年 9 月末日までに編集委員または本講座教員に投稿予定表（別添）を提出のこと。投稿締め切りは毎年 10 月 15 日とする。
8. 投稿原稿は、コピー 2 部（計 3 部）に、電子メディア（使用ソフト名明記）を添えて、編集委員のメールボックス（専攻事務室内）に提出し、あわせて電子メールに同原稿のファイルを添付して編集委員のメールアドレス宛に送信すること。日本語の場合、A4 判の用紙に 40 字× 30 行でプリントアウト（縦書き・横書きいずれでも可）し、400 字詰に換算した分量（縦横各 20 字で一枚と計算、その総計枚数）を明記。欧文の場合、A4 判の用紙に 30 行でプリントアウトし、総語数を明記。各頁には通し番号を記入し、注はすべて原稿の末尾につけること（脚注にはしない）。併せて、英文タイトル、執筆者名の英語表記、現職名（大学院生は所属名）を添える。
9. 投稿原稿は完全原稿で提出のこと。著者による校正は再校までとし、校正時における大幅な加筆・訂正は認めない。
10. 著者には本誌 5 部、抜刷 30 部を贈呈する。それを超える分の抜刷については、著者の自己負担とする。

*投稿規定は次年度以降変更の可能性がります。

〔執筆者紹介〕

澤田 裕子 三重大学非常勤講師
道坂 昭廣 京都大学大学院人間・環境学研究科教授
村上 絢一 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
米澤 隼人 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程

歴史文化社会論講座紀要 第17号 2020年2月28日発行

編集・発行 京都大学大学院人間・環境学研究科

歴史文化社会論講座

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院人間・環境学研究科

印刷所 株式会社 田中プリント

〒600-8047 京都市下京区石不動之町 677-2

TEL 075-343-0006

Journal of History, Culture and Society

Number 17

February 2020

Articles

- The Studies of “Prefaces of Poems” by Wang-Bo in Shoso-in Treasure house:
in Comparison with Other Versions (the second part of two essays)
..... MICHISAKA Akihiro
- The Buddhist Service for the Dead and Family Groups in Heian
Aristocratic Society: Focusing on the 10th and 11th Centuries SAWADA Yûko
- The Studies of the Construction of the Kan'in-tei as the Secondary
Palace in Search of the Relationship between Bakufu and
the Imperial Court in Kamakura Period YONEZAWA Hayato
- Research on Medieval Place Names and the Relation between
Myō, Kaito, and Residences in Kuta-Gō, Yamashiro Province
(Kuta, Sakyō-ku, Kyoto City) MURAKAMI Junichi

Course of Social Cultural History

Graduate School of Human and Environmental Studies

Kyoto University